

「純水すすぎ」の連続洗車機を導入した キーパーLABO東郷店オープン

愛知県の東に位置し、名古屋市と豊田市の間にある東郷町。土地面積は360坪とキーパーLABOにしては少し大きめの店舗です。キーパーLABOとして、初めてドライブスルー洗車機を導入。手洗い洗車はもちろん、洗車機でのセルフ洗車も利用できる店舗です。純水生成機には「快洗RO II」を使用しています。水洗いやシャンプー洗車の後に「純水」ですすぐ工程が追加されています。水洗いやシャンプー洗いの速度や、純水塗布の量やスピードを最適に設定しました。純水のすすぎにより、洗車後の拭き上げがなくても、白い斑点が全く残りません。

カーコーティングは、今までと同じように空調完備のコーティングブースでの施工です。4台同時にカーコーティングを施工することができます。手洗い洗車と仕上げ場もしっかり整備。もちろんお待ちいただける快適な待合室も用意しています。コーティング技術1級資格スタッフを3名配置。

42店舗目のキーパーLABO。たくさんのお客様にキレイと感動を与える店舗を目指します。



キーパーLABO実績の掲載をしばらく休止いたします。

キーパーLABOの実績を、キーパータイムズに掲載し始めたのは、およそ14年前、店舗がまだ「洗車屋・快洗隊」という名前で2店舗しかない頃のことです。これは、お客様に対して高品質なキーパーコーティングと洗車等を提供するビジネスの可能性を、自らが運営する店舗での実践で実証したいとの考えと、自らを追い詰める意味も込めてタイムズへの掲載を始めたものです。

どうせ公開するならば実績が良い時も、恥ずかしいような実績しか出せなかった時も、すべてを公開しなくては意味が無いと考え、キーパータイムズの定番の記事として一度も欠かさず、そのままの数字を掲載してまいりました。そうするうちに直営も増え、有志としてFC店の高松西店も加わって直近では33店舗の実績を載せるようになっていました。

しかし、ここで問題が発生しました。載せているキーパーLABOの実績はあくまでも当事者である弊社が出した数字であって、そこにそれが間違いのない数字であるかどうかの検証が第三者によってされている訳ではない情報を、発行部数2万部のキーパータイムズという媒体に載せていいのかという問題です。

そこで、これを解決すべく、第三者が検証し、公にしても間違いのない体制ができるまで、当面キーパーLABOの実績をキーパータイムズに掲載することを見合わせることにしました。

来年の3月を目途に掲載を再開できる体制作りをして参ります。楽しみにしている方もいらっしゃるかとお聞きする中で、皆様には申し訳ありませんが、掲載を再開できるまで、ご容赦賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

KeepPer 技研株式会社 代表取締役社長 谷 好通

STORE RELOCATION

キーパーLABO上溝店が10月7日(火)に移転・オープン

新キーパーLABO上溝店(神奈川県相模原市)は、216坪の大型の倉庫の中に、キーパーLABOの要素・設備を全て作り込んだ「全天候型店舗」です。

お客様が、お待ちの間、全ての作業を見渡しなが、ゆっくりとお過ごしいただけるガストルームと、5台同時にカーコーティングの施工が出来る、空調完備のコーティングブースが特長です。今までのお客様が安心してご利用いただけるよう迎え入れ、新しいお客様を喜んで歓迎します。たくさんのお客様に、満足と感動を与えられる店舗を目指します。



SUPER GT REPORT

10/5(日) SUPER GT 第7戦 チャンインターナショナルサーキット(タイ)

タイヤ無交換作戦で、TOM' S36号が優勝、37号は4位獲得！ 11/15最終戦はノーハンドのガチンコ勝負、チャンピオンは誰の手に!?

100号車のペナルティもあって34周目に3位にまでポジションを上げ、39週目に伊藤 大輔選手にドライバーチェンジ!

チャンピオンシップもトップの36号車ジェームス・ロシター選手(中嶋 一貴選手は第2,3戦目を欠場)を3ポイント差で追う2位をキープ。次戦もてぎではノーハンドのガチンコ勝負で最終決戦に良い流れを持って望む。

ピット作戦が大成功を収める

ここでTOM'Sは36と37号車に対してドライバーチェンジの際、少しでもピット作業の時間を短くするためにタイヤの交換を行わず、1セットのタイヤで最後まで走り切る作戦に打って出た。決勝前のフリー走行の際にレースの長さと同等の距離を1セットのタイヤで走行し予め戦力力の確認がなされていた。この作戦が大成功を収め、とうとう42周目にKeepPer TOM' S RC Fがトップに躍り出る!! しかしタイヤ交換を行いペースの上がっている46号車からの激しいプッシュを受け、44周目にトップを明け渡す。残り9周、同じレクサス勢での1-2体制を維持しつつ周回を重ねるも、徐々に24号車と12号車の3位グループを形成している日産勢が差を詰め、残り8周に24号車に、残り5周12号車にかわされてしまい4位までポジションを下げる。なんとかそのポジションをキープし4位フィニッシュとなった。



伊藤 大輔選手

アンドレア・カルダレリ選手

序盤の混乱に巻き込まれながらも 順調に順位を上げる

今大会から各車両に課せられたウェイトハンデが半分にはなったものの、KeepPer TOM'S RC Fは燃料リストラクターが残ったままの戦いとなり、予選まで上位に食い込むことができず、KeepPer TOM'S RC Fも13番グリッドからスタートとなった。

空は薄い雲に覆われつつもドライコンディションのままスタート。スタートドライバーはアンドレア・カルダレリ。まずはオープニングラップで2台をかわし、10位までポジションを上げるも、各車両が入り交じり、最終的に14位にまでポジションを落とす。

新しく出来たサーキットの路面特性とコースレイアウトもあってか、抜きどころが非常に少ない中、徐々に順位を上げて行き、10位に順位を戻す。46号車の独走状態が続いていた。26周を終え、7位争いのグループに少し近づいて行く。この辺りから各車両のピットインが始まり、

GT500 : ドライバーランキング (第7戦終了時点)

順位	チーム	ドライバー	ポイント
1	LEXUS TEAM PETRONAS TOM' S	ジェームス・ロシター	67
2	LEXUS TEAM KeepPer TOM' S	伊藤 大輔/アンドレア・カルダレリ	64
3	NISMO	松田 次生/ロニー・クインタレッリ	61
4	TEAM IMPUL	安田 裕信/ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ	60